

風しんぶん



【海岸侵食災害より住民を守る会】南区中田島砂丘にて



中田島砂丘では天竜川に設置したダムの影響などで砂の堆積が減り、台風や強い季節風で海岸が侵食され砂が飛散し海岸線が後退しています。その砂を留めるのに効果的なのは堆砂垣の設置。設置位置や風向きによっては、ひと冬で1mくらいの砂山ができることもあるそうです。また、平成18年度から年に1回「堆砂垣プロジェクト」として、市民・学校・企業の協働で大々的な設置運動を実施しています。昨年は300人の参加がありました。ちょうど視察時には、開成館高校の生徒さんが集まりリーダー研修が行われていました。

第2回

まちづくり活動視察研修ツアー

浜松まちづくりセンターに登録する『まちづくり関係団体』は18分野、130団体を超え、その活動分野は福祉・環境・子育て・文化など各分野にわたり、市民団体の活動は大きな力になっています。

晴天にも恵まれた平成20年10月19日、市議会議員、市の職員を中心に22名で、主に南区・東区で活動する5つの団体の活動現場を訪れ、生の声を聴かせていただきました。

「やはり見ると聞くとは大違い。実際に活動している方の話を、現地を見ながら聞くことができたので非常に勉強になりました。」との感想も聞かれました。

【リサイクル運動市民の会静岡支部】



東区イトーヨーカドー宮竹店屋上にて

当日は、月に1回のリサイクルステーションとフリーマーケットが同時に開催されており、多くの来場者でごった返していました。市の委託事業として運営しているリサイクルステーションは、平成17年から始めて今年で4年目。年々回収量は増えて、現在は開始当初の3倍に上ります。回収場所も増えて現在市内12箇所、各月1回の回収を行っています。特に単身赴任者や自治会組織に属さない人達の受け皿としてこの場が機能しているそうです。その他にも環境保全のためのリサイクル運動、不要品回収による国内外への支援協力などの活動をされています。

【中野町を考える会】



東区中ノ町自治会館にて

H17年、町中の遊休地の開発問題をきっかけに発足。住民アンケートで課題を集約し、住環境や道路などのハード整備とコミュニティなどのソフト整備に活動の対象を拡大しています。国道1

号線の拡幅工事に伴って様々な問題が巻き起こってきましたが、まちの変革のチャンスと捉えて国や県・市に要望を出し互いに協力しながら、環境整備にも関わっています。「昔の写真展」をきっかけに会の活動も住民に認知されていきました。東海道や天竜川の恩恵を受けて、かつて栄えた町の歴史や100年以上も続く花火大会を地域資源として再認識し、地域の活性化を図っています。

【新貝まちづくりの会】



東区新貝町集会所にて

地区内は土地改良がされておらず、狭い道路や未舗装道路が多くなっています。また、排水施設が未整備で、雨の後は冠水する畑も見られるなど立ち遅れた社会基盤の整備が急務となっ

ています。市街化調整区域で、大半が農用地に指定されており、人口減少が続いているという問題も抱えています。また、平成18年度から始めた体験農園は人気があり、現在17区画の畑について農業指導つきで体験ができ、参加者には好評。10/12には他の組織や住民たちと協力して新貝コミュニティ祭を開催しました。

【ひまわり2525プロジェクト】



中区花と緑の祭りにて

平成17年に馬込川沿いの土地を借りて、ひまわりの種をまいたのが最初。荒地の開墾や種まきの時期、水遣りなど試行錯誤で進めてきました。ひまわり畑は、現在飯田町や蛸塚など他地

区にも広がって、今年は米津で3万本のひまわりを咲かせて、約3,000人の人たちが訪れました。土地が広いので、違う種類の肥料を試してみるなど様々な実験を行うこともできました。ひまわりを通じて、自然と人のかかわり・人の交流を生んで、豊かな心と笑顔があふれるまちづくりを進めたいと活動されています。

◆ ◆ ◆ 地域のまちづくり ◆ ◆ ◆

自分たちの『まち』のこと、自分たちで考え、進めていこう！

まちづくりセンターでは、より快適で住みやすいまちにするため、地域住民が自ら考え、話し合い、実現する「地域のまちづくり」を応援しています。今回は「新貝まちづくりの会」と「中野町を考える会」の取り組みについて紹介します。

新貝まちづくりの会

市街化調整区域である新貝(しんがい)町は中央卸売市場を挟んで東西に広がる約100haの地区です。

天竜川、安間川、飯田公園に隣接していて、農業振興地域であり、自然に恵まれた静かで落ち着いた住環境にあります。

しかしながら、土地改良事業等も未施行で、道路・排水路等の基盤整備、農地の利活用、地域コミュニティの活性化等多くの課題を抱えています。

H16.10「このままではいけない。」と新貝町の住民自らが望む新貝町の将来像について話し合い、住民自らが望むまちを実現するために、「新貝まちづくりの会」の活動が始まりました。

まち歩きや「農と住の専門家」による講演会、市の出前講座を聞いて勉強を繰り返すなか、H18.7月には経験者のいない中、遊休農地の利活用の一つの取り組みとして「体験農園」や「共同農園」をはじめました。指導は地元農家にも応援を依頼し、共同農園の作付けは近隣住民や子供達とも協力し合い、3年目を迎える今年は体験農園も17区画にまで増えました。

H19.5.29浜松市から正式に土地利用協議会として認定されて以降は、新貝町の未来、そして子供達の時代により結果を残せるよう“まちづくり方針について”の検討を続けています。

H20.10 会の活動を知っていただくと共に住民間の交流を計るべく、新貝町内の住民たちのグループと協力し合いながら開催された「新貝町コミュニティまつり」では、手芸等の手作り作品展や演奏会、一箱古本市や射的、食べ物模擬店などが行なわれ、参加者、来場者共々楽しい時間を過ごすことができました。小さな一歩ですが、ひとりひとりの力が集まって生み出された大きな成果といえるのではないのでしょうか。

住民の皆さんが自分たちのまちに関心を持ち、まちの将来について考えることで、少しずつではありますが、目標としている『住民が暮らしやすく、安心、安全なまちづくり』が実現することでしょう。

人と地域を
応援します！



勉強会の様子



体験農園で畝の作り方を聞いている
ところです。さぁ！いよいよ本番。



「H20.10 新貝町コミュニティまつり」の
模擬店と賑わい

中野町を考える会



中野町のキャッチコピーとマーク

東区中野町は「東海道」の江戸日本橋～京都三条大橋のちょうど真ん中に位置することから、『なかのまち』と名づけられました。江戸時代には街道筋の川渡しの間の宿（あいのしゆく）として賑わい、明治から大正時代には川を使って運ばれる天竜木材の集積地として活況を呈しました。昔から交通の要衝であり、「東海道」と「天竜川」の交差点として、その恩恵を受けて栄えてきました。そんなまちも戦後の社会構造の変化や木材産業の斜陽化に伴い、次第に活気は薄れて高齢化や商店街の衰退などの課題を抱えています。さらに近年の国道1号線「新天拡幅工事」によって生活環境が大きく変化して、静かな暮らしが脅かされています。

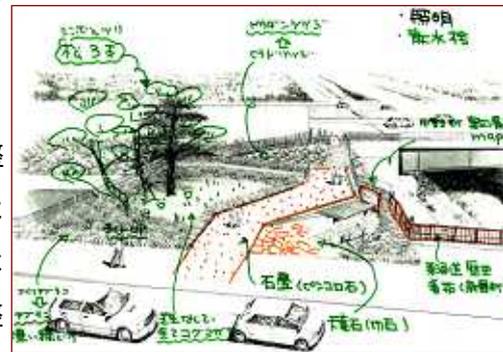


昭和8年頃の天竜川と中野町
帆掛舟や筏で川が賑わう様子

「中野町を考える会」は平成17年6月に、町内遊休地の利活用問題をきっかけに結成されました。その後地域住民への全戸アンケートなどから3つのテーマを設定し、それに沿った活動を展開しています。

住環境の整備（安心して暮せるまち）

新天拡幅工事をまちの基盤整備のチャンスと捉えて、ポケットパークの整備や街路樹の植栽によるまちの緑化など、工事に関連する7項目を自治会と連名で国県市へ要望しました。自分達で町を歩いて、「こうなったらいいなあ」という想いを絵にしながらい行政各方面と協議して、現在実現へ向けて整備が進められています。



橋のたもと
ポケットパークの整備イメージ

魅力的なまち・人の交流（楽しく暮せるまち）

芝居小屋やカフェが建ち並んだ賑やかな昔のまちを、タイムスリップしてのぞいてみたいと、古い写真を集めて「中野町昔なつかしの写真展」を企画しました。これは地域の子供からお年寄りまで皆さんに好評をいただき、地域外も含めて7回もの展示会を開催しました。地域の資産を再確認し共有する良い機会となりました。またこれらの魅力を発信しようと「まちのキャッチコピー&ロゴマーク」を一般公募しました。全国から440点もの応募があり、住民の人気投票などを経て右上のコピーとマークが決定し、会発行の印刷物やTシャツなどに活用されています。



「昔なつかしの写真展」
天竜川橋歩行者天国イベントにて

利便性の向上（暮しやすいまち）

個人商店の減少を食い止め遊休地の利活用を進めて、暮しやすいまちづくりを目指しています。まちに賑わいを呼ぼうと、現在歴史や文化の地域資産を紹介する案内看板の整備を進めています。

自分達の住むまちの良さをみんなに理解してもらうために「中野町検定」を実施したり、小学生への地域学習にも取り組み始めました。これから将来へ向かって、私たちのまちがこうなったらいいなあというビジョンを描き、それに向かって活動を少しずつ積上げていきます。



小学生の地域学習
まちなか探検

「衰退を克服したアメリカ中小都市のまちづくり」
から学ぶ “ 地方都市のまちづくり ”

平成 20 年 12 月 16 日（火） 静岡県産業経済会館



「衰退を克服したアメリカ中小都市のまちづくり」の著者 服部圭郎氏（明治学院大学准教授）をお招きして、地方都市のまちづくりを考えるフォーラムを開催しました。

基調講演では、アメリカで元気のある人口 10 万人以下の都市「パーリントン」と「ボルダー」の事例が紹介され、成長管理政策を導入し市場原理にとられない、生活の豊かさを追求したコンパクトなまちづくりの取組みが報告されました。

パネルディスカッションでは、みずほ情報総研の藤井康幸氏・県都市計画室の佐野貴彦氏を交えて、静岡の地方都市のまちづくりを考える討論がなされました。豊かな公共性を獲得するために行政が果たす役割や、市民が主体的にまちづくりにかかわり、役割を担う仕組みのイメージなど、具体的な提言もなされました。

私たちの都市も自動車社会や大型商業施設の開発が進み、アメリカの都市が経験してきた課題に直面しています。参加者は豊かな暮らしを楽しむための都市のあり方を、改めて考えさせられました。

次回、まちづくりフォーラムは・・・

『ヨーロッパの自転車まちづくり』欧州視察報告 須藤 あつし氏（都市計画家協会 会員）

平成21年2月7日（土）13:30～ 静岡文化芸術大学 南280教室にて 

冬の草花実を見ながら歩きました♪

冬の寒さが少し厳しくなり始めた 12 月 7 日（日）、NPO 法人グリーンデータバンクさんの案内のもと、まちづくり楽校“樹を見て歩こう”を開催いたしました。

今回は浜松北高等学校の正門前に集合をし、旧奥山線の遊歩道を通り、東照宮、新川端、常盤橋を経てまちづくりセンターまでゆっくりと沿道の木々などの説明を聞きながら歩きました。

紅葉の季節ということもあり、モミジやイチョウ、ハゼなど、赤や黄、橙色の葉に日光が当たってとても綺麗でした。

また、旧奥山線鹿谷トンネルを出た所の「カミヤツデ」や東照宮の「ユーカリ」の他、コース沿いの個人宅の庭には「オリーブ」「杏」「ブーゲンビリア」など、この辺りではめったに見られない樹があり、参加者は興味深げに観察をしていました。

この時期実が生っている樹も多く、普段見分けがつきにくい「クロガネモチ（赤い実）」と「ネズミモチ（黒い実）」は実の色で区別ができます。昔の動物園の名残?! 鹿谷トンネル周辺の「椎」にはリスが来るという情報もあります。



センターに着いてからは「今日見た中で、害のある樹は?」「図鑑を見てもわからない種類は、どう確認したらいい?」「普段何気なく通り過ぎていた道にもたくさんの種類の植物があることがわかった。」など、様々な質問や感想などを聞くことができました。

次回は、平成 21 年 3 月 7・8 日開催のセンター祭の時にセンター周辺の木々を見て回る予定です。



昔の浜松まちなか～まち並み復元地図（第3版）

浜松まちづくりセンターの2階ライブラリーでは、11月30日まで小西貴さん(浜北区)の作成した、昭和10年代の浜松市中心部を復元した地図第3版の展示会を行いました。期間中は地図を一目見ようと連日来場者で賑わい、興味深げに地図を眺める光景が見られました。中には地図に記されたエリアに住んでいた方もおり、今はなき当時の街並みを小西さんと談笑しながら懐かしんでいるようでした。

今版で第3版となる小西さんの地図ですが、そもそもなぜ地図を描くことになったのか、そしてどのように復元していたのか、ここではその経緯について紹介させていただきます。

子供に自分が幼少期を過ごした街のことを伝えようにも、当時の写真や地図は浜松空襲で焼失して伝えることができない…。

ならば自分で描いてみよう、大正時代の地図と記憶を頼りにかつての自宅周辺の地図を描いたのは昭和48年のこと。これが初めての地図作成でした。

その後しばらくブランクを挟みますが、昭和55年、卒業後35年の節目に行われた元城小学校の同窓会を機に地図作りは新たな展開を見せます。

同窓会に地図を持っていったところ、それを見た同級生が「自分の家はここだった」「ここでよく遊んだ」と懐かしみながら、地図に当時の記憶を記していったのです。こうして戦火で思い出を呼び起こすもののほとんどを焼失した小西さんたちにとって、この地図は唯一当時を懐かしむことのできるかけがえのない資料となりました。そして、4年に一度開催されることとなった同窓会は、同級生が両親などから得た情報を地図に書き足す場となったのです。

この取り組みは、新聞社やテレビ局など多くのメディアに取り上げられ、同級生以外からも情報が提供されるようになります。しかし、当時は本業も忙しく、なかなか地図作成に時間を割くことが出来なかったそうです。

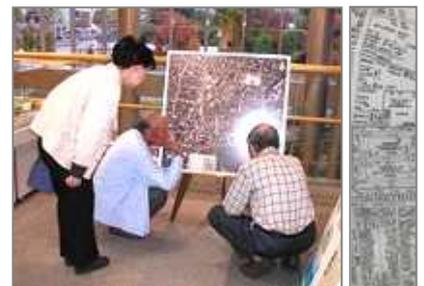
年目標を掲げるようになり、地図作成が本格化するのは平成10年ごろ。2年後の平成12年には第1版が完成し、希望者に対して実費での販売を開始しました。その購入者の一人が、B29から撮影された空襲後の浜松中心部の写真を小西さんに資料として提供することで、地図製作は新たな局面を迎えます。写真には焼け野原となった浜松市街を通る道が鮮明に浮かび上がり、奇しくも卒業写真のフィルムを焼いたB29からの航空写真が、それまで一部縮尺がおかしかった地図の精度を高めることとなりました。

その後は平成15年の第2版、今回の第3版と徐々に記載情報を増やしていき、8000軒以上の情報を盛り込むまでに至りました。

このようにして30年以上の歳月をかけて、今も尚制作中の地図は、戦前の街並みを伝える大変史料的価値の高いものです。

しかし、それに勝るとも劣らず注目していただきたいのが、小西さんの機械顔負けの職人技です。印刷された地図は一見すると機械で作られた物にも見えますが、実のところ道路の製図から地名・家主の氏名の貼り付けに至るまで全て地道な手作業によって行われたものなのです。聞けば小西さんの本当の趣味はレーシングカーの製図だそうで、ル・マン

24時間耐久レースの優勝車を毎年精巧に製図してきた技術が地図製作に活かされているのです。





まちづくり夜楽塾



第76回「地域社会で男女共同参画を推進するために」 10月1日(水)



お話しは・・・
波多野千津子さん
(ともづなの会代表)

あいホールを拠点として活動をされている「ともづなの会」さん。男女共同参画社会について、様々なデータを元にお話を頂きました。男女共同参画と聞くと女性の問題だと考えがちですが、男性にとっても必要なことだそうです。男らしさの追求から我慢を強いられ過労死や自殺につながる、セクハラ被害も決して女性だけではなく、男性にも関わることだと訴えかけていました。ワークショップでは、「地域社会って何?」「固定的な性別役割分担意識をなくすために」「意識の変化を促す・意見を伝える」の3つのテーマに基づき、2グループに分かれて意見を出し合いました。

第77回「ひまわりを通じた、笑顔のまちづくり3年間」 11月28日(金)

活動を始めて3年目になる「ひまわり2525プロジェクト」。今回は活動紹介第2弾ということで、種ほぐし体験なども交えながらこれまでの報告やスタッフの紹介、座談会などを行ないました。「希望の種」を蒔くという想いで「いつも心に太陽を、みんなの心に太陽を」をモットーに、笑顔溢れるまちづくりを目指しているメンバー。年々新たな畑に挑戦し、また、ひまわりにとどまらず環境問題にも関心を持ってエコ運動に取り組むなど、活動の領域を広げているということです。観光地になるような大きなひまわり畑を作りたいという夢の実現に向けて、多くの方の参加を呼び掛けていました。



お話しは・・・
ひまわり2525プロジェクト
実行委員会メンバー

第78回「中小企業の生きる道～老舗カフェ2代目の奮闘記～」 12月3日(水)



お話しは・・・
鈴木美彦さん(ロココマスター)
岩崎美紀さん(BSC研究会)

今回は、BSC研究会の岩崎美紀さんとロココカフェのマスター鈴木美彦さんをお招きし、BSCを導入したカフェ経営についてお話を伺いました。経営・管理が多様化し、変化も激しい予測困難な時代の中で生き残っていくには、戦略を確実に実行することが重要です。ロココカフェでは今後の方向性を模索しながらも、開放的な雰囲気作りや食材へのこだわりに加えて、BSC研究会という外部からの声をもとに、売上げ増加や経費削減、更にはスタッフの意識向上にも取り組み、成果を出しているということでした。参加者からは様々な意見や感想が出て、関心の高さもうかがえました。

次回のまちづくり夜楽塾は・・・

2009年 1/21 (水)
19:00~20:30

遠州綿紬(つむぎ)は、 浜松モノ作りの原点

浜松で発達していた「遠州綿紬(つむぎ)(遠州縞)」の歴史や特徴を映像や生地を用いて伝え、現代によみがえらせようとしている取り組みを紹介します。



※遠州綿紬(遠州縞)展をH21. 1/15(木)~28日(水)まで開催いたします!(火曜日を除く)



新たに加わったまちづくり関係団体 (12月20日現在)

NO.	団体名	まちづくり活動の分野	紹介
153	ひまわり2525プロジェクト	コミュニティ	若者を中心にひまわりを通じて自然をいかし、人との交流を生み、豊かな心とニコニコ笑顔が溢れる環境に優しいまちづくりを目指します。
154	特定非営利活動法人 三遠南信アミ	地域	三河、遠州、南信州エリアの地域情報の発信と地域間の交流・連携活動の推進を行い、地域の活性化を目指す。

★関係団体からののお知らせ★

クイズで勉強

とことん知ろう浜松！！

政令市に移行し、新たな魅力を持つ新しい浜松市。

知っているようで知らない浜松のことを、チーム対抗クイズ大会でチェックしよう！

地元企業からのオリジナル出題や康友市長の講演内容からの出題もあるよ。

さあ、みんなでチャレンジ！！

主催：浜松市商工会議所女性会

申込み・お問合せ：浜松市商工会議所経営支援課 女性会事務局

TEL 053-452-1115 FAX 053-452-6685



入場・参加
無料
お楽しみ賞品あり

参加チーム募集！

平成21年

2/28(土) 13:30~16:30

基調講演 13:30~14:30

クイズ大会 14:45~16:00

表彰式 16:00~16:30

会場：浜松商工会議所 マイカホール

除夜の鐘撞き と どんど焼き

除夜の鐘撞き

日時：2008年12月31日(水)

午後11時30分頃より



2008年の諸々の厄を落とし2009年を良い年にしよう。

お問合せ先(共通)：延壽山林慶寺 浜松市滝沢町

TEL 053-428-3696

どんど焼き

日時：2009年1月11日(日)

午後3時頃より



持ち物：正月飾り、お札、絵馬(わら・紙・木・布)、お餅、

お願い(ビニール・プラは止めてください)

どんど焼きの火でお餅を焼いて食べよう！

「日本語の教え方」講習会

-「にほんごドレミ」と「にほんごジャンプ」を使って-

NPO法人 浜松外国人子ども教育支援協会(TOMO2)では、研修の一環として(財)海外日系人協会にご協力いただき、来る平成21年1月17日(土)に「日本語の教え方」講習会を開催いたします。この講習を通じて、効果的な考え方を学び、日頃の授業に生かしていただきたいと思っております。皆様のご参加お待ちしております。

日時 平成21年1月17日(土) 13:30~16:30

場所 Uホール 23会議室

定員 100名

参加費 500円

申込締切 平成21年1月10日(土)

問合せ・申込先 NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会 TEL/FAX 053-457-3006

プログラム

- * 日本語教科書の作成にあたって
- * 日本語教科書の内容説明
- * ワークショップ
- * 質疑応答



県営遠州灘海浜公園リサイクルフリーマーケット

1月11日(日)・24日(土)



2月8日(日)・21日(土)

3月8日(日)・21日(土)



共通：10:00~14:00

広い公園内には、球技場、木製遊具、サイクル広場、自然生態観察園、売店など様々な施設があり、四季折々の自然が楽しめます。出店者にもお客様にも過ごしやすい会場です。出店は開催日の5日前までにご連絡ください。

出店料1,800円

(主催)浜松文化フォーラム TEL・FAX 053-471-8538

第9回浜松よさこい

がんこ祭 2009

浜松に春呼ぶ、
四千五百人の舞い吹雪。

3月21日(土)12時~
22日(日)11時30分~

鍛冶町大通り
歩行者天国など

がんこに続けて九年目。
日本有数のイベントに成長した、
華やかな昼の舞、想像を絶する夜舞。
踊るも見るも、来なきや損。

☆☆センターからのお知らせ☆☆



第7回



浜松まちづくりセンター祭



H.21.3/7(土), 8(日)

10:00~16:00 入場無料

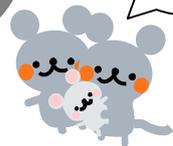


まちづくり作品コンクール表彰式、まちづくり活動のパネル展示、ポッチャ大会、積み木でまちづくり、まちなみ史跡めぐり、チャリティ茶席、紙しばい、樹を見て歩こう、わんちゃんふれあい広場、工作体験、おりがみ・コサージュづくり、^{いろいろり}下郎売の口上、朗読、綿くり・綿打ち体験、子どもピエロショー、スタンプラリー、五色百人一首、防災グッズ作り 他にもいろいろあります。

詳しくは、1月中に配布予定のプログラムをご覧ください

※3/7(土)オープニング 9:40~和太鼓「打」X(ダックス)演奏

来てね!



まちセンで知ったよ! いろんな浜松

インターンシップ生紹介

静岡文化芸術大学大学院生が実習生として、
11日間の実習を行いました。

期間中は地区計画策定の協議会など住民主導で行われるまちづくりの現場に携わらせていただき、各地域の抱える問題やまちづくりを推進することの難しさを肌で感じ取ることが出来ました。20年以上居住し、当たり前になっていた浜松市を、新たな切り口から再発見する有意義な機会となり、今後は市民として何が自分にできるかを考え、行動に移していきたいと思うようになりました。本当にありがとうございました。



まちづくりセンター 新スタッフ紹介

松下仁美です。
皆様との出会いを大切に、
より浜松を好きになれたらいいなと思っています。
よろしくお願い致します。



浜松まちづくりセンター通信「はままつ風しんぶん」

発行:浜松まちづくりセンター(平成20年12月)

430-0929 浜松市中区中央1-13-3

(財)浜松まちづくり公社(指定管理者)

☎053-457-2616 FAX053-457-2617

メール:h-m-c@msi.biglobe.ne.jp HP:http://hamamatsu-machi.jp/center/

